

詩編 103 : 17~22

ヨハネによる福音書 6 : 38~40

「御使いのように」

(ハイデルベルク信仰問答 祈りについて 問 124)

※問答は「日々の祈り」をご覧ください。

【招詞】 イザヤ書 60 : 1~2

【讚美歌】 24 「たたえよ、主の民」

【詩編交読】 詩編 6 編

【赦しの宣言】 イザヤ書 55 : 7 「主に立ち帰るならば、主は憐れんでくださる。

わたしたちの神に立ち帰るならば／豊かに赦してくださる。」

【讚美歌】 18 「心を高くあげよ！」

【祈祷】

【聖書】 詩編 103 : 17~22

ヨハネによる福音書 6 : 38~40

【説教】 「御使いのように」

<神さまの御心>

主日礼拝では、毎週『ハイデルベルク信仰問答』を元に、「主の祈り」の言葉を、一言ずつ御言葉から聞いています。

今日は、「主の祈り」の第三の願い、「みこころの天になるごとく、地にもなさせたまえ」という祈りの意味について、共に知っていきたいと思います。

「みこころの天になるごとく、地にもなさせたまえ」。今の易しい言葉に直すと、「みこころが天に行われるとおりに／地にも行われますように」となります。

神さまの御心が、地にも行われますように。これは、どういうことを求めている祈りなのでしょう。

まず、「御心」という言葉ですが、これは、「神さまのご意志」のことを意味します。神さまのお考え。神さまが為そうとしておられること。また、そのご計画、と言っても良いかも知れません。それが、神さまの御心です。

そして、それは、わたしたちを愛し、赦し、救ってくださるような、父なる神さまなので、わたしたちにとって、恵みに満ちた、良い御心。良いご計画に違いありません。

旧約聖書のエレミヤ書 (29 : 11) には、このような神さまご自身の御言葉があります。「わたしは、あなたたちのために立てた計画をよく心に留めている、と主は言われる。それは平和の計画であって、災いの計画ではない。将来と希望を与えるものである。」

さて、このような神さまの御心が、この地になる、ということを、わたしたちはどのように考えるでしょうか。

「みこころが天に行われるとおりに／地にも行われますように。」

それは例えば、神さまの御心によって、世にはびこる悪が滅ぼされ、罪が消し去られ、争いのない、平和な世界になる。人がみんな愛し合う、理想の世界になる。そんなことをイメージして、わたしたちは「みこころが天に行われるとおりに／地にも行われますように」と祈っているかも知れません。

どこか、他人事のような目線で、この地上の争いや困難を、傍から眺めて、「早く地上に神さまの御心になって、早くすべてが神さまのご計画通りになって、こんな悪や罪に満ちた世界が、平和な世界になりますように」。そんな思いで祈っているかも知れません。

でも、この祈りは、そんな悠長なことを祈っているわけではありません。

「みこころが天に行われるとおりに／地にも行われますように。」

この祈りによって、神さまの御心が行われるべきなのは、まず、わたしたち自身の上になのです。神さまの御心がこの地になる。神さまのご意志が、ご計画が、この地になる。それは、まず今この地に、ここで生きている、このわたしに、神さまの御心になること。このわたしが、神さまの御心に従う者になること。そのことから始まるのです。

この祈りは、わたしの思い、わたしの理想が、この地になるように、という祈りではありません。神さまのご意志が、神さまの思いが、神さまのご計画が、この地に行われることを求めているのです。

そうであるならば、まず、このことを祈っているわたし自身の上に、神さまの御心が行われることを求めなければならないのです。

<唯一正しい御心>

ですから、今日の『ハイデルベルク信仰問答』の問 124 は、「第三の願いは何ですか」の問いに、まずこのように答えています。

「答 『みこころの天になるごとく、地にもなさせたまえ』です。すなわち、わたしたちやすべての人々が、自分自身の思いを捨て去り、唯一正しいあなたの御心に、何一つ言い逆らうことなく聞き従えるようにしてください」。

わたしたち、そして神さまに造られたすべての人々が、自分自身の思いを捨て去り、唯一正しい神さまの御心に、そのご意志に、ご計画に、何一つ言い逆らうことなく聞き従うようになる。このことを、わたしたちは祈り求めているのです。

しかし、「神さまの御心」とは、具体的には一体どういうものなのでしょうか。わたしたちは、何に、どういう風に従えばよいのでしょうか。

聖書には、この父なる神さまの御心が何であるか、ということを、神の御子であるイエスさまがはっきりと教えてくださっている箇所があります。

それが、今日読まれた新約聖書の、ヨハネによる福音書 6：38～40 のところです。もう一度そこをお読みしてみます。「わたしが天から降って来たのは、自分の意志を行うためではなく、わたしをお遣わしになった方の御心を行うためである。わたしをお遣わしになった方の御心とは、わたしに与えてくださった人を一人も失わないで、終わりの日に復活させることである。わたしの父の御心は、子を見て信じる者が皆永遠の命を得ることであり、わたしがその人を終わりの日に復活させることだからである。」

ここでは、神の御子イエスさまが、天の父なる神さまの御心を行うために、この地上に来られたこと。そして、その父なる神さまの御心とは、「わたしに与えてくださった人」、それはつまり、続きにあるように、「子を見て信じる者」のことですが、イエスさまのことを信じる者が、一人も失われないこと。皆が永遠の命を得ること。そして、終わりの日に復活させること。これが、父なる神さまの御心だ、と言っておられます。

父なる神さまは、神さまから離れてしまったわたしたちが、罪に捕らわれたままでいることを、良しとされませんでした。わたしたちが滅びることを、御心とされませんでした。むしろ、御子イエスさまの救いの御業によって、わたしたちを罪から救い出し、神さまの許に立ち帰らせること。神さまと共に生きる命を与えること。そして、終わりの日には、わたしたちを死の滅びに渡さず、復活させて、神さまと共に永遠に生きる者とする。このことを、御心としておられる。ご計画しておられる、ということです。

ですから、問 124 の答えは、神さまの御心のことを、「唯一正しいあなたの御心」と言っています。この「正しい」という言葉は、「善／良い」とも訳せる言葉です。

わたしたちの思い、わたしたちの心は、いつも自己中心的です。どんなに善いことを思っても、計画しても、どこか罪に偏ってしまいます。ですから、『ハイデルベルク信仰問答』は、かつて問 8 で、人間の神さまに対する不従順の罪、自己中心的な罪は、「どのような善に対しても全く無能で、あらゆる悪に傾いている」とまで語っていました。

一方で、神さまの御心は、唯一正しいもの。唯一、全く完全な、良いものです。

そしてそれは、わたしたちを救うことを、目的としてくださったものです。

なぜなら、わたしたちは、神さまに造られたものであり、神さまはわたしたちを、心から愛し、尊び、憐れんで下さっているからです。

ですから、わたしたちが、この、神さまの「唯一正しい御心」に従うということ。それは、この父なる神さまの愛を知ることであり。御子イエスさまによる、罪の赦しを信じることであり。聖霊によって、わたしたちが、神さまを愛し、また自分のように隣人を愛することができるような、神さまの御心に適ったものへと、新しく造り変えられる、ということなのです。

それが、わたしたちが、神さまの御心に従っていく、ということなのです。

ですから、これは、遠い世界のどこかで起こることではありません。

これはまず、ここにいる、このわたしに、起こるべきことなのです。

そして、この神さまの御心は、イエスさまの十字架と復活の出来事によって、まず決定的なその一歩が、確かに、この地に行われました。

イエスさまは、ヨハネ 6：38 で「わたしが天から降って来たのは、自分の意志を行うためではなく、わたしをお遣わしになった方の御心を行うためである」と言われました。

それが、神の御子でありながら、まことの人となって世に降られること。ご自分の十字架の死によって、世のすべての人の罪を背負い、わたしたちの罪を完全に償われること。そして、復活によって、わたしたちの死に打ち勝ち、わたしたちにも、この地上で死んで終わりではない、永遠の命と復活を約束してくださることだったのです。

こうして、わたしたちに罪の赦しを与え、永遠の命を得させ、復活に与らせるという、神さまの、唯一正しい御心は、恵みの、良い御心は、まず、イエスさまによって、確かにこの地になったのです。

<わたしたちが従うこと>

しかし、この御心が、イエスさまによって実現したからといって、わたしたちの意志に関係なく、わたしたちが神さまに従うようになるのではありません。わたしたちは、ロボットのように造られたのではないからです。

神さまは、わたしたちにも、神さまと対話ができるように、神さまと響き合うことが出来るように、心を、思いを、自由な意志を、与えてくださいました。

それは、わたしたちと神さまが、愛による、本当の関係を築くためです。もし、わたしたちの意志が何もないのなら、それは愛の関係と呼ぶことは出来ません。それは、ただの命令に従うロボットであり、主人に逆らえない奴隷です。

でも、神さまは、わたしたちと、愛の関係を築こうとしてくださった。

だからわたしたちは、自分の意志で、神さまを愛し、共にあることを喜び、自ら進んで従っていくこともできるし。一方で、神さまに逆らうこと、神さまから離れること、神さまに罪を犯すことも出来てしまうのです。

そのように造られた中で、しかし、すべての人間は悪に傾き、罪を犯し、神さまから離れてしまった。命の造り主であり、すべての源である神さまから離れ、滅びへ向かって歩むものとなってしまったのです。それはもちろん、神さまの御心ではありませんでした。

だから神さまは、わたしたちが罪に気づき、悔い改めて、神さまに許へ帰ってくる道を、御子イエスさまによって、備えてくださったのです。

そして、神さまは、一人一人の名前を呼んで、あなたの罪を赦すから、あなたを愛しているから、わたしの許に立ち帰りなさい。わたしの子どもとして歩みなさい。わたしと共に生きなさい。そう招き続けてくださっているのです。

この、招きに応えることこそ、わたしたちが神さまの御心に従うということなのです。

心から悔い改めて、感謝して、喜んで、神さまと共に生きる道を選ぶということが、神さまの御心に従って生きる、ということなのです。

それが、「天のみこころが、この地になる」ということなのです。

だから、わたしたちは、罪にまみれた自分の思いを捨てて。イエスさまによって示された、この神さまの、愛と憐みの思いを。わたしたちを救ってくださるご計画を。心から受け入れていくことができるように。神さまの御心が、確かにわたしたちに、救いと平和を与えてくださる、良い御心であることを信じて、心から従っていくことができるように。

「みこころの天になるごとく、地にもなさせたまえ」。「みこころが天に行われるとおりに、地にも行われますように」。そう、祈っていくのです。

<自分の思いを捨てて>

さて、そして問 124 は「わたしたちやすべての人々が、自分自身の思いを捨て去り、唯一正しいあなたの御心に、何一つ言い逆らうことなく聞き従えるようにしてください」と語っています。これは、わたしだけでなく、地上のすべての人々が、この神さまの御心に従い、永遠の命をいただき、復活に与ることができるように、との祈りなのです。

わたしが、御心に従えますように。そして、わたしの隣人も、また世のすべての人々も、神さまの御心に従うようになりますように。

…そのことを祈り求めるなら、どうしてわたしたちが、自分と同じように、神さまが愛し、救おうとしておられる隣人と、敵対したり、憎み合ったり、傷つけあったりしてよいのでしょうか。あるいは、神さまのことを知らせずに、神さまの救いを伝えずに、悩みや孤独にある人を無視したり、放置したりしてよいのでしょうか。

わたしたちは、「みこころの天になるごとく、地にもなさせたまえ」と祈るなら。この神さまの御心が、ますますこの地に行われていくために。一人でも多くの人々が、神さまの御心を知り、従うようになるために。祈る者、仕える者、働く者となることもまた、祈り求めていくことになるのです。

<天の御使いのように>

ですから、問 124 の答えの後半には、こうあります。

「そして、一人一人が自分の務めと召命とを、天の御使いのように喜んで忠実に果たせるようにしてください、ということです」。

わたしたちは、神さまから、一人一人、自分の務めと召命とを与えられています。

「召命」という言葉は、「召命を受ける」というような使い方をしますけれども、狭い意味では、救いに与った者が、牧師や伝道者など、神さまの救いのお働きに仕える特別な務めに生涯を献げるよう、神さまから召し出されることを言います。

しかし、また一方で、イエスさまを信じてキリスト者になったら、すべての者は、一人残らず、この「召命」を受けている、ということが出来るのです。

この「召命」という言葉は、ドイツ語では「職業」「仕事」という言葉と同じです。

つまり、キリスト者は、一人一人が、この世で、社会で与えられている務め。それは、何かの職業でも、家庭で働くことでも。あるいは、自分が望んでいない場所に置かれているとしても。それぞれが日々、与えられている場所で、神さまに仕えるように、神さまのために働くように、召されているということです。与えられている場所で、神さまの御心に従って生きるのです。そこで神さまからの使命を、務めを、喜んで果たしていくのです。

信仰問答は、それを「天の御使いのように」と表現しました。わたしたちが「天の御使いのように」、自分の務めに、召命に、生きる。印象的な言葉です。

天の御使いとは、どのような者なのでしょう。今日の旧約聖書の詩編 103 編には、御使いが登場しました。こうありました。20～21 節をお読みします。

「御使いたちよ、主をたたえよ／主の語られる声を聞き／御言葉を成し遂げるものよ／力ある勇士たちよ。主の万軍よ、主をたたえよ／御もとに仕え、御旨を果たすものよ。」

御使いとは、主をたたえる存在です。そして、主の語られる声を聞き、御言葉を成し遂げる存在です。そして、御許に仕え、御旨を果たす存在です。

この天の御使いのように、わたしたちがなる。この地でありながら、主をたたえ、主の語られる声を聞き、その御言葉を成し遂げる。神さまの御許に仕えて、神さまの御旨、御心を果たしていく。

「みこころの天になるごとく、地にもなさせたまえ」。

これは、わたしたちが、そのように神さまをたたえつつ、心から喜んで、忠実に、神さまの御言葉に、御心に、仕えることができますように、と求める祈りでもあるのです。

<御心のままに>

しかし、この地上において、神さまの御心に従って生きる、ということは、決してわたしたちにとって、楽しいばかりや、喜びばかりのことではありません。

この世の終わりの日、神の国の完成の日が来るまでは。この地上には、まだ悪の力があり、罪の力があり、わたしたちは弱さや、貧しさを抱えながら、歩んでいきます。

ですから、神さまに逆らう力に苦しめられることも、自分の弱さに打ちひしがれることも、多々あるに違いないのです。

神さまに従うことで、迫害を受けることがあるでしょう。今の時代でも、国によっては、キリスト教を信じることで政府から圧力を受け、牢に繋がれている兄弟姉妹もいるのです。

また、社会で、職場で、信仰を持って生きることを、受け入れてもらえないこともあるでしょう。家庭の中で、家族に反対されることもあるでしょう。

また、「十戒」に従って、神さまの御前に正しく生きようとする中で、この世においては損害を被ったり、正直者が馬鹿を見ると、揶揄されることもあるかも知れません。

また、それぞれの隣人との歩みの中で、自分を傷つけた者を赦すこと。敵を愛すること。それは、わたしたちにとって、絶望的に困難なことに違いありません。

わたしたちは、このことを、自分の力で、自分の努力や意志で、やり遂げることは出来ません。わたしたちには、そんな強さや、力は、ないのです。

でもこれは、神さまの御心なのです。神さまの正しい、良い、ご計画のためなのです。そして、神さまは、御心を必ず実現なさるお方です。

ですから、神さまが、御心によって、このことを地上にあるわたしたちに、必ず行わせてくださると信じて。神さまが、力を与え、守り、励まし、必ず恵みへと至らせてくださることを信じて。わたしたちは、「みこころの天になるごとく、地にもなさせたまえ」と祈り続けていくのです。

そして何より、神さまの御心に従うことの困難さは、神の御子イエスさまが、一番よくご存知です。イエスさまは、わたしたちの罪のために、十字架に架けられる前の夜。ゼツセマネという場所で、ひどく恐れてもだえながら。血のような汗を滴らせながら。父なる神さまに、祈りをささげられました。それは、このような祈りです。(マタイ 14:36)

「アッパ、父よ、あなたは何でもおできになります。この杯をわたしから取りのけてください。しかし、わたしが願うことではなく、御心に適うことが行われますように。」

神さまの御心が行われる。それは、イエスさまにとって、ご自分が、すべての人の代わりに罪の審きを受け、十字架の苦しみを受け、殺される、ということでした。

イエスさまは、恐れ、もだえ、この苦しみが、取り除けられることを願われました。でも、最後にはこう祈られたのです。「しかし、わたしが願うことではなく、御心に適うことが行われますように」。

まず、イエスさまが、自分自身の思いを捨て去り、唯一正しい父なる神さまの御心に、聞き従われたのです。そして、忠実に、その務めを果たされたのです。

イエスさまが、このように祈りをもって、御心に従い抜いて下さったからこそ、わたしたちの罪の赦しを実現したのです。罪人のわたしたちに、神さまと共に生きる道が拓かれたのです。わたしたちを、神さまの下に立ち帰らせ、永遠の命を得させ、終わりの日には復活に与らせる、その神さまの御心が、確かに、この地になったのです。

そして、父なる神さまは、御心を成し遂げられたイエスさまを、死者の中から復活させ、救いが確かに、この地に成就したことを明らかにされました。こうしてイエスさまは、罪にも、悪にも、死にも、勝利され、すべてを支配する権威を与えられたのです。

この、神さまの御心に従い抜き、救いの御業を成し遂げ、すべてに勝利されたお方が。そして、わたしたちの弱さも、苦しみも、恐れも、すべてご存知である、このお方が。いつも、わたしたちと共にいて下さるのです。いつも、わたしたちのあらゆる世の戦いの先頭に、立っていてくださるのです。

何より、このイエスさまご自身が、わたしたちに、「みこころの天になるごとく、地にもなさせたまえ」と祈ることを、教えてくださったのです。

この方が、この祈りをわたしたちの上に、実現してくださらないはずが、ありません。

このイエスさまが共にいてくださるなら。共に祈ってくださるなら。わたしたちはきっと、御心に従う歩みへと、導かれていくでしょう。

そして、父なる神さまは、このわたしたちの祈りを、必ず聞き届けてくださり、必要なものをすべて備え、欠けを充たし、心を強めてくださるでしょう。また、聖霊を遣わし、わたしたちの心を新しく造り変え、愛と赦しに生きる者としてくださるでしょう。

そして、地のすべての人々の上に、御心を行ってくださるでしょう。

だから、わたしたちは、その確信をもって、希望をもって、「みこころの天になるごとく、地にもなさせたまえ」。そう祈り続けていきたいのです。

そして、今日も、与えられた場所で。今、それぞれが遣わされているところで。わたしたちは、「御使いのように」神さまをほめたたえ、御言葉に聞き従い、喜んで、忠実に、務めを果たす者とされたいのです。

【お祈り】 天の父なる神さま

あなたの御心が、この地になりますようにと、祈り求めます。

あなたの御心は、わたしたちへの愛に満ち、救いを実現し、将来の希望を与えるものです。わたしたちが、罪に満ちた自分の思いを捨てて、ただあなたの御心に従うことができるように、お導きください。

わたしたちの救いのために、御心に従い抜かれ、御心を実現してくださったイエスさまが、わたしたちと共にいて、このことを果たすことが出来るよう、支え、守って下さい。

聖霊なる神さま、わたしたちの心を、神さまに従うものへと新しく造り変えて下さい。

そして、わたしたちやすべての人々が、あなたの愛の御心に、喜んで聞き従うようになりますように。みこころの天になるごとく、地にもなさせたまえ。

主イエス・キリストの御名によってお祈りいたします。アーメン

【讃美歌】 5 1 2 「主よ、献げます」

【信仰告白】 ニカイア信条

【十戒】 【献金】 6 5 - 1 「今そなえる」

【主の祈り】 【祈祷】

【讃美歌】 2 9 「天のみ民も」

【祝福】 主があなたを祝福し、あなたを守られるように。

主が御顔を向けてあなたを照らしあなたに恵みを与えられるように。

主が御顔をあなたに向けてあなたに平安を賜るように。

主イエス・キリストの恵み、神の愛、聖霊の交わりが、あなたがた一同と共にあるように。アーメン